

研究主題

第3学年

自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習
～思考力・判断力・表現力を育む授業を通して～

串間市立福島小学校 教諭 岡野 晃子

I 主題設定の理由

現代社会は、国際社会の進展や価値観の多様化、人々の生活環境の急速な変化により、先の予測が困難な状況にある。そのような社会に対応できる力を育むために、子どもたちには「思考力・判断力・表現力」を身に付けることが求められている。

現在の宮崎県の実態として、「みやざき小中学校学習状況調査」の中学校1年生の社会科の結果から、資料を読み取ることや、読み取った事実から考える・判断する・表現するといった社会的な思考力・判断力・表現力を育てていくことが課題とされている。

そこで、思考力・判断力・表現力を育むための授業ができないかと考え、本主題を設定し研究を進めていった。

II 研究の視点

- 1 主体性を引き出す単元構成の工夫
 - (1) 学習問題を解決するための単元構成
 - (2) 地域教材の活用
- 2 協同的な学習を充実させるための手立て

III 研究の実際

- 1 主体性を引き出す単元構成の工夫
 - (1) 学習問題を解決するための単元構成

本研究は「市のようすとくらしのうつりかわり」の単元で授業実践を行ったものである。市の様子や人々のくらしが時代の推移に伴って変化していることについて考える本単元では、学習問題を設定する際に、児童の気付きや疑問を生かした学習問題を設定した。この学習問題を解決するために、単元の導入では串間市の昭和時代と令和時代を比較し、時代の推移に伴って変化したものを付箋によるKJ法で分類し、この分類した項目を学習内容として単元を構成した。[資料参照]

- (2) 地域教材の活用

分類した項目に沿って調べ学習を進めていく中で、道具やくらしについて考える時間がある。本校には昔の写真や道具が数多く保管されており、本単元の道具やくらしについて考える時間では、その写真や道具を活用して授業を進めていった。また、本校の近くには古くからある家が資料館として残されており、この2つを活用した授業実践を計画した。身近にある道具を見たり触ったりすることや、古くから残されている建物を見学することで、より具体的に、市の様子や道具、くらしの変化について考えることができると考えたが、今回は新型コロナウイルス感染防止のために建物見学をせずに本などを用いた調べ学習を行った。

<計画段階>

- | | |
|------------------------|---------------------|
| (1) 学習問題を作る …3時間 | (2) 市の交通の移り変わり …2時間 |
| (3) 市の建物の移り変わり …1時間 | (4) 市の人口の移り変わり …2時間 |
| (5) 市の人々の暮らしの移り変わり…5時間 | (6) 学習のまとめ …1時間 |
| (7) これからの串間市 …2時間 | |



<実際>

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| (1) 学習問題を作る…3時間 | (2) 串間市の建物や人々の服装の移り変わり…2時間 |
| (3) 串間市の人口の移り変わり…3時間 | (4) 串間市の交通の移り変わり…2時間 |
| (5) 串間市の町の様子や道具の移り変わり…3時間 | (6) 学習のまとめ…1時間 |
| (7) これからの串間市…2時間 | |

【資料】 計画段階時と実際の単元構成の変化（※ □は変わった箇所）

2 協同的な学習を充実させるための手立て

本単元では、協同的な学習を充実させるための手立てとして付箋を用いた KJ 法を活用した。

導入段階において時代の推移に伴い変化したものを各自が付箋に書き込み、それを持ち寄って分類する活動を設定した。特に、分類した項目の言葉が長く、分かりにくいものにならないように、書く際には、短く簡潔に書くよう指導した。そうすることで、書くのが苦手な児童やうまく説明できない児童でも取り組みやすく、自分たちの気付きや考えを一人一人が発表し、グループ内全員で共有することができた。[写真参照]



【写真】 KJ法で分類している児童の様子

IV 研究の成果 (○) と課題 (●)

- 導入段階において時代の推移に伴って変化したものを分類したことで、分類した項目で単元を構成し、主体的に調べ学習を進めていくことができた。また、児童の疑問などを生かして学習問題をつくったことで、その後の学習にも意欲的に取り組むことができた。
- 付箋による KJ 法を用いてグループでの話し合いをしたことで、話し合いが苦手な児童も積極的に参加して意見交流することができた。また、書いた付箋をうまく用いてグループで協力して分類することができた。
- KJ 法で付箋を用いたが、使う付箋の色を決めずに進めていたことで、視覚的に見てみると、話し合いの結果が分かりづらいものになった。
 - 付箋を用いる際は、気付きや意見、疑問などによって付箋の色を変えるように意識をするとよかった。
- 新型コロナウイルス感染予防のため、計画していた実践ができなかったものがあり、深まりが十分でないところがあった。特に地域素材の活用（資料館の見学等）ができなかったため、次年度では積極的に活用していきたい。

一人一人に問題意識をもたせ、追究意欲を高める社会科学習
 ～ 第4学年「安全なくらしを守る」の実践を通して ～

宮崎市立江平小学校
 落合 成美

1. はじめに

平成28年中央教育審議会答申では、「どのように学ぶか」という点において、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが示され、子どもたちが生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにすることが大きな方向性として示されている。

小学校学習指導要領解説社会編（平成29年告示）では、「消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。」と示されている。このような知識・技能を子どもたち自身が「調べたい」、「知りたい」と「問い」をもち、主体的に学んでいくことができれば、もっと授業が楽しく、面白いものになると考える。

そこで、私が行った工夫は以下の二つである。

1. 分かりやすい資料かつ予想とは異なる結果となる資料（相反する事実）を準備し、個人の学習問題を考えさせる工夫
2. 全員の学習問題を一枚の用紙にまとめ、学級の学習問題として検討できる工夫

2. 授業の実際

単元「安全なくらしを守る（交通事故や事件をふせぐために）」（第4学年）第1・2時

学習活動	指導上の留意点																																		
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康なくらし ・ 安全なくらし <p>2 資料を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故件数・死者数・けが人 ・ 自転車が盗まれた場所 <div data-bbox="172 1335 769 1601"> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 10px;"> <caption>平成29年の交通事故の様子</caption> <thead> <tr> <th>地区</th> <th>発生件数</th> <th>ケガ人</th> <th>死者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国</td> <td>472165</td> <td>580849</td> <td>3630</td> </tr> <tr> <td>宮崎県</td> <td>8293</td> <td>9751</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>宮崎市</td> <td>3882</td> <td>4198</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <caption>平成29年自転車の盗難場所</caption> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>台数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ちゅうりん場</td> <td>1286</td> </tr> <tr> <td>自分の家</td> <td>307</td> </tr> <tr> <td>道路</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>ちゅうりょう場</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>学校</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>パーキング</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2135</td> </tr> </tbody> </table> </div>	地区	発生件数	ケガ人	死者	全国	472165	580849	3630	宮崎県	8293	9751	42	宮崎市	3882	4198	12	場所	台数	ちゅうりん場	1286	自分の家	307	道路	162	ちゅうりょう場	157	学校	70	パーキング	25	その他	128	合計	2135	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見学した場所などを想起し、本時の授業の見通しがもてるようにする。 ○ 全国のけが人は宮崎県民の人口の半分にあたるなど、具体例を示すことで、その数の多さをイメージしやすくする。 ○ 12人という数字に着目させ、この数は少ないか問うことで、1人でもなくしたい、安全に暮らしたいという思いが増すようにする。
地区	発生件数	ケガ人	死者																																
全国	472165	580849	3630																																
宮崎県	8293	9751	42																																
宮崎市	3882	4198	12																																
場所	台数																																		
ちゅうりん場	1286																																		
自分の家	307																																		
道路	162																																		
ちゅうりょう場	157																																		
学校	70																																		
パーキング	25																																		
その他	128																																		
合計	2135																																		
<p>めあて</p> <p>3 資料をもとにわたしの学習問題を考える。</p> <div data-bbox="151 1736 778 2083"> </div>	<p>事故や事けんから命を守るための学習問題をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 宮崎市の人口や車の保有台数が年々増加していることをおさえた後、交通事故とけが人が増加しているのか、減少しているのか予想させることで、学習への意欲付けを図る。 ○ 人口や車の保有台数の増加に反し、事故やけが人は減少しているという資料を提示することで、子どもたち自身から「問い」が生まれるようにする。 ○ 素直に感じたことを書いていいことを伝える。 ○ 子どもたちの考えを机間指導でメモしておく。 																																		

4 1枚の紙にみんなの考えを貼り付け、学級の学習問題を決める。

学級の学習問題

事故や事件から人々の命を守るためにだれがどんな努力や工夫をしているのだろう。

5 予想を立てる。

- ・だれが
- ・どんな努力をしているか

6 調べること・方法を考える。

7 次時の見通しをもつ。



- 学習問題になるようなキーワードを探すように伝える。
- ワークシートに「だれが」「どんなこと」といった視点を書いておくことで、予想を立てやすくする。
- なかなか予想を立てられない子どもには、身近で安全を守ってくれている人はいないか個別に声をかける。

子どもたちが考えた「わたしの学習問題」

- ・ 人口や車の台数は増えているのに、なぜ事故件数やけが人は減っているのだろう。(20人)
- ・ こんなに交通事故が減ったのは何かがあったのか。(4人)
- ・ 事故や事件を0にするには、どうしたらいいのだろう。(4人)
- ・ 事故や事件の原因が知りたい。(1人)
- ・ 今と昔の道のちがいを調べてみたい。(1人)
- ・ どんな事故があったのか知りたい。(1人)
- ・ 交通事故を減らすために人々はどんな努力をして、どんな工夫をしているのだろう。(1人)

3. 成果と課題

まずは、一点目の工夫、資料の活用についてである。具体的な数字を示したり、子どもたちがイメージしやすい数で説明したりすることで、事故や事件を0にしたいという思いをもちながら、現状を知ることができた。また、宮崎市の人口と車の保有台数が増加している資料を事前に見せることで、ほとんどの子どもは、事故件数やけが人も増加していると予想した。しかし、事故件数やけが人が減っているという予想とは逆の結果になることで、疑問や関わっている方々の工夫や努力を知りたい、調べたいという追究意欲がわき、全員が「わたしの学習問題」を考えられたのだと思う。

しかし、資料の数が五つと多かったため、どの資料に着目したらよいか分からない子どももいた。そのような子どもに対しては、着眼点に分かる資料を用意したり、いくつか事故や事件の様子が分かる写真などを渡したりすることで、より「わたしの学習問題」を考えやすくなったのではないかと考える。

次に、二点目の工夫、全員の考えを一枚にまとめることについてである。みんなの学習問題を決める際に、全員の学習問題を1枚にし、子どもたちへ配ることは、周りの友達も同じ考えをもっているということに気付いたり、自分には思いつかなかった考えに触れたりして、全員で学級の学習問題を検討することができた。

しかし、子どもたちが考えた「わたしの学習問題」でも示したように、「だれがどんな努力や工夫をしているのだろう。」というねらいに沿う学習問題を立てられた子どもは少なかった。なぜ、事故件数やけが人が減っているのだろうという疑問から、もう一步踏み込んだ疑問を子どもたち自ら考え出すにはどうしたらよいかを考えていくことがこれからの課題である。

研究主題

第5学年

社会的事象の意味を捉えさせる指導の在り方
 — 資料活用の工夫を通して —

宮崎県都城市立高城小学校 教諭 井上 岳

I 主題設定の理由

学習指導要領では、各教科等の目標において、各教科の特質を踏まえた「見方・考え方」を働かせて学ぶよう示された。小学校社会科の学習においても、社会的な「見方・考え方」を働かせることが求められている。では、社会的な「見方・考え方」とはどのようなものなのか。学習指導要領解説社会編では、『社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」と記されている。つまり、これからの社会科では、子どもたちが空間、時間、相互関係などに着目して、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関係について多角的に捉え、考えたり、関わり方について考察したりする授業が求められると考える。

しかし、私自身のこれまでの授業は、子どもたちに知識を教えることを重視したものであった。そのため、本学級の児童は資料から事実を読み取ったり、読み取った事実同士を関連付けて考えたりすることに苦手意識をもっている。

本学級の子どもたちの社会科の学習に対する意識調査は以下の通りである。

	好き ← → 嫌い			
	得意			苦手
1 社会科の学習は好きですか。	8%	36%	42%	14%
2 グラフや写真などの資料を読むことは、得意ですか。	6%	29%	59%	6%
3 資料から分かったことを関連づけて考えることは得意ですか。	6%	32%	44%	18%

そこで、本研究では、子どもたちに資料から事実を引き出したり、関連付けたりする力を付けることで、社会的事象の意味を捉えたり、更には実生活の中でその考え方を生かしたり出来るようにするために本主題を設定した。

II 研究の実際

1 ワークシートの工夫

子どもたちが社会的事象の意味を捉えるためには、資料からその根拠となる事実を読み取ったり、資料から分かった事実同士を関連付けて考えたりすることが必要である。そこで本実践で用いたワークシートは、上に写真やグラフ、図などの資料とその資料名を示し、下にその資料から分かる事実を書くことができるようにした。さらに、その資料から読み取った事実同士を関連付けて、本時のめあてに対する答えをまとめとして書けるよう構成を工夫した。

【資料① ワークシートの例】

これからの食料生産 (2時間目)
めあて

本時のめあてを書く。

資料①
今から50年ほど前の食事



現在の食事

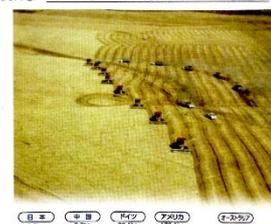


資料② 国産と外国産の値段の違い

鶏肉 (2015年)	国産	外国産
かほりや (2016年)	国産	外国産
プロユコリ (2016年)	国産	外国産
たまねぎ (2016年)	国産	外国産

※いずれも100gあたりの1年間の平均値

資料③ 広大な農地と主な国の従事者一人当たりの耕地面積



日本	2.3ha
ドイツ	29.9ha
アメリカ	176.6ha
オーストラリア	133.6ha

資料から分かる事実を書く。

まとめ

資料から分かる事実を基に、まとめを書く。

2 資料の読み取らせ方

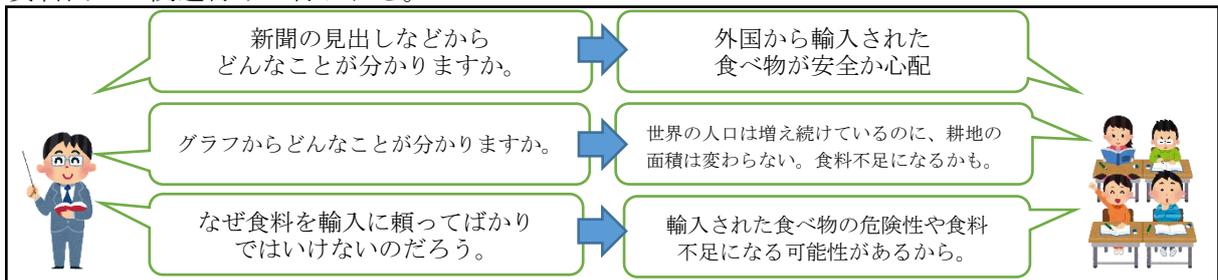
社会科における資料活用において、学習指導要領解説では「社会的事象等について調べまとめる技能」に位置付けられている。具体的には、問題解決に必要な社会的事象に関する情報を集める技能、収集した情報を社会的な見方・考え方によって読み取る技能、読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能であり、児童に身に付けさせるためには繰り返し指導することが大切だと考える。そこで、資料を読み取らせるためのポイントを児童に示し、そのポイントを基に資料を読ませるようにした。児童に示したポイントは以下の通りである。

【資料② 資料を読み取るためのポイント】

イラスト・写真	棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ	地図
① 資料名及び年度や出典から何を表したイラスト・写真か読む。 ② 気付いたことは何か、見つける。	① 資料名及び年度や出典から何を表したグラフか読む。 ② 縦軸と横軸の単位は何か読む。 ③ 最大値・最小値などの数値を読む。 ④ グラフがどんな形をし、どのように変化しているか読む。	① 資料名及び年度や出典から何を表した地図か読む。 ② 国または県、市などの位置を確認する。 ③ 方位や距離、地図記号などからその場所の実際の様子をふくらませる。

3 発問の工夫

学習活動の中で、子どもたちが資料同士を関係付けることができるようにするためには、教師の発問が重要であると考えます。そこで、資料同士を関連付けることができるよう、社会的事象の起因や要因について考えさせるための発問を行う。具体的には「なぜ」「どうして」と問う発問である。このように問うことで、児童は資料から得た事実や情報を用いて、答える必要が出てくる。そこで資料同士の関連付けが行われる。



III 授業の実際

- 1 単元名 これからの食料生産
- 2 本時の目標
 - 食料輸入に対する問題をグラフや写真などから読み取ることができる。
- 3 指導過程

	学習活動及び学習内容	指導上の留意点
導入	1 前時の学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。 めあて どうしてこのまま食料を輸入に頼ってはいけないのだろう。	○ 日本が多くの食品を輸入に頼っていることを振り返らせるようにする。 ○ このまま食料を輸入に頼ることへのぼんやりとした危機感を、学級全体で確認させるようにする。
展開	3 資料から分かることを読み取る。 ①新聞の記事→食の安全性の問題 ②写真→気候変動や自然破壊などの問題 ③グラフ→将来の食の供給の問題 4 資料から読み取ったことを基に、食料自給率が下がることへの問題点を考える。	○ 資料を読み取るためのポイントを示し、一人調べを行わせるようにする。 ○ 資料から分かったことを全体で確認させるようにする。 ○ 資料から読み取ったことを基に、食料自給率が下がることのような問題が起こるかグループで話し合わせるようにする。
終末	5 本時のまとめをする。 まとめ 食の安全性、気候変動、将来の食の供給などの問題によって、自分たちの食生活へ影響があるから、輸入ばかりに頼ってはいけない。	○ 読み取った資料を関連付け、本時のめあてに対するまとめを書かせるようにする。 評価 食料を輸入に頼ることで発生する問題を読み取ることができる。

IV 研究の成果と課題

- ワークシートを工夫したことで、資料から分かる事実を読み取りやすくすることができた。
- 「なぜ」という理由を問うことで、子どもたちが複数の事実を関連付けて考えようとする姿が見られてきた。今後も継続して指導していくことで、さらにその姿は変容していくと考える。
- 複数の事実を関係付けて考えようとするが、資料の中にある語句の意味の理解がまだ不十分のところもあり、うまく文章をまとめることが出来ない児童も見られる。

研究主題

よりよい社会を形成していく生き方を創りつづける社会科学習

—情報活用能力育成と主権者としての意識の涵養を目指した授業を通して—

単元名「わたしたちの生活と政治」

日向市立美々津小学校 教諭 宮下 裕一

I 研究主題との関わり

学習者が事前知識と社会的文脈の中で主体的に知識を構築していくように、知識の在り方や学習観が変わってきている。教育の中での技術（technology）活用や、技術を用いた教育の在り方の再考が、国際的に繰り広げられている。最近では21世紀型スキルやOECDのPISA2018調査（生徒の学習到達度調査）に見られるように、情報活用能力育成が重要な課題になっている。

また、国連のESD（持続可能な開発のための教育）及びSDGs（持続可能な開発目標）に見られるように、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められており、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を発達段階に応じて身に付けさせていくことは、本研究主題である「よりよい社会を形成していく生き方を創りつづける社会科学習」の目指すところであり、我が国の将来を担う国民としての自覚や、積極的に社会を構築する主権者としての意識を育む上で大変意義深いと考える。

そこで、問題解決的な学習過程の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するために、「児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、その結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程」を工夫する研究実践を進めていくことにした。

II 研究の視点

- 1 課題解決までの視点づくり
- 2 バズ・セッションによる調べ学習と情報共有
- 3 考えを再構成し多角的に考える力を高める「まとめ」づくり

学習段階	学習活動
つかむ	既習内容の確認 学習課題つかみ
考える	課題解決の見通し（視点） 課題解決
深める	まとめづくり
振り返る	学習の振り返りと次時の確認

III 研究の実際

【1単位時間の授業の流れ】

小学校学習指導要領解説社会編において、「社会的な見方・考え方」は、「社会的な事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の『視点や方法』である」と述べられている。そこで、「日本国憲法とはどのようなものであるか」という「単元を貫く問い」を基に、毎時間、調べたい「学習課題（問い）」を作成した。そして、「学習課題」から「まとめ」までの学習過程において、次のような手立てを講じた。

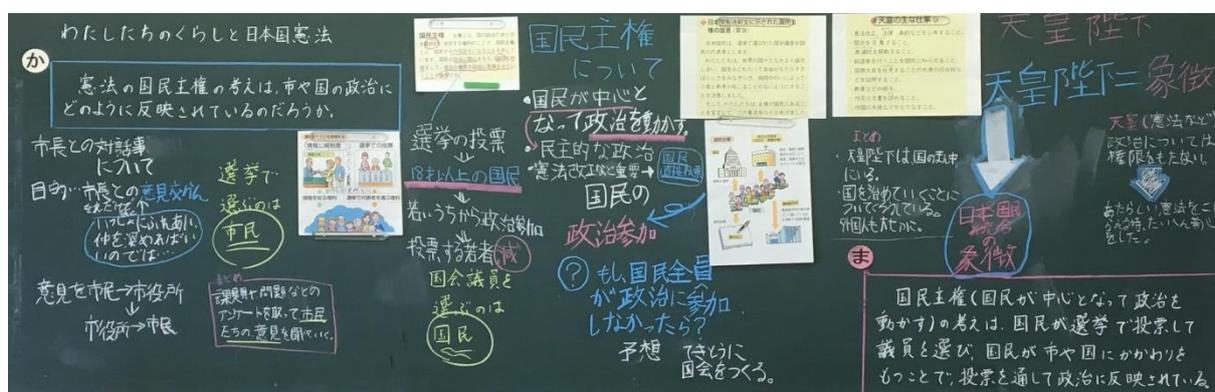
- 1 課題解決までの視点づくり

授業の導入では、日向市HPに「市へのご意見・ご要望」が設置されていることから、「憲法の国民主権の考えは、市や国の政治にどのように反映されているのだろうか」という問いを立てた。そして調べる前に、調べていくための見通しを立てる視点づくりの場を設定した。授業では課題解決のための見通しとして複数の「視点」を設け、その視点から課題解決を行った。児童から出された意見として、「国民主権」「天皇」「日向市（宮崎県）」等があったため、それらの意見を、「国民主権」「天皇の地位や仕事」「市の政治参加」の3つの視点に整理し、調べ学習へつなげるようにした。

2 バズ・セッションによる調べ学習と情報共有

3つの視点をもとに、学級を3つのグループに分け、それぞれの班に割り振って調べ学習を行った。調べ学習では、個人で調べた後、同じグループで話し合う時間を設け、グループ内での情報共有を図った。そして、話し合った内容を全体に報告する際は、黒板やホワイトボード、タブレット等を活用できるようにした。特に黒板の板書は、情報共有の手段として、必要な資料を貼ったり考えを書いたりできるようにした。

また、各グループの報告会による情報共有では、質疑応答や意見交換も行った。発言の中には、日向市の情報公開制度を説明するために、日向市HPにある寄付金の使用用途が公開されていること等を示して「国民主権」を説明したり、国民の政治参加としての選挙が18才以上に認められているが、若者の投票率の低下問題があることに触れたりする等、学習課題に対して、それぞれの視点から課題解決のための考えを示すことができた。児童に意識させたことは、問いに対するそれぞれの視点からの知識の構築である。しかし、児童の説明だけでは、それぞれの視点の説明が十分ではないところもあるので、視点別発表の後に、教師が確認をしながら、足りないところは補足するようにした。



【情報共有や発表として活用した板書】

3 考えを再構成し多角的に考える力を高める「まとめ」づくり

考えを再構成させるためには、問いを念頭に情報共有した内容をさらに深めていく必要がある。そこで、自由に意見を出し合いながら、「まとめ」をつくり上げる場を設定した。その際、発言を随時TVで映し出し、まとめの言葉づくりを「見える化」した。「まとめ」づくりでは、「国民主権の考えは、選挙で投票して市議会議員や国会議員を選ぶことによって反映されている」という意見に対し、課題の最後が「どのように反映されているのだろうか」となっていることに着目した児童がいた。その意見から、「国民が市や国に関りをもつこと」の言葉が必要だと気づくことができた。また、もっと簡潔にまとめられないか言葉を吟味する児童もいた。

最初は情報の羅列だったものが、一つ一つの言葉の意味の確認や関連付け等を行うことによって、「国民主権（国民が中心となって政治を動かす）の考えは、国民が選挙で投票して議員を選び、国民が市や国にかかわりをもつことで、投票を通して政治に反映されている」というまとめができ国民主権に対する考えをより一層深めることができた。

IV 研究の成果と今後の課題

- 児童相互の話合いを充実させ、多角的に考える力を高める手立てにより、複数の資料から目的に応じて特定の情報を見つけ出し、関連付けて話合いを深める点において、情報活用能力の育成に寄与することができた。
- バズ・セッションによる調べ学習や考えを再構成する「まとめ」づくり等の手立てにより、主権者としての立場から考えを深めることができた。
- 授業において、主権者として我が国の政治に関わろうとしたり、社会の担い手として平和で民主的な国家及び社会を築き上げようとしたりする発言までには至らなかった。今後は、さらに政治を身近なものとして捉え、自分事として考えられる地域素材の開発や学習活動の工夫をしていく必要がある。